

太陽光で扇風機「動いた」

芳川小児童、発電の仕組み学ぶ



太陽光発電の仕組みを学ぶ児童＝浜松市南区の芳川小

浜松市南区の芳川小で2日、再生可能エネルギーをテーマにした出張授業が開かれ、5年生約100人が太陽光発電の仕組みを学んだ。

講師を務めたのは、LPGガス販売「エネジン」（中区）。児童は同社の担当者から腕時計や電卓、街路灯など太陽光電池の身近な活用例や、再生可能エネルギーについて学んだ後、住宅用ソーラーパネルの組み立てに取り組んだ。

縦0・8メートル、横1・6メートルのパネルを4枚つなぎ合わせて発電し、実際に扇風機やラジカセが稼働すると、「動いた」「すごい」などと歓声が上がった。

風力や太陽光、水力などを利用してつくる再生可能エネルギーへの理解を深めてもらおうと企画した。柿沢慶実君（11）は「ソーラーパネルの発電で動く仕組みが面白かった」と感想を語った。